



# 愛知陸協広報

第58号

令和5年3月31日発行

一般財団法人 愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目19番16号 ハレラニ千代田ビル301

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

ホームページ: url <http://www.aichi-rk.jp/>

## 令和4年度を振り返って

専務理事 稲垣 裕

新型コロナウイルス感染症の影響で昨年、一昨年と約2年間オリンピックをはじめ国内外の主要競技会が通常に戻り運営されました。選手及び指導者・陸上関係者にとって、待ちに待った環境が整った年でもありました。競技会を支えていただいた愛知陸協審判員約1,200名の皆様方に改めて感謝を申し上げます。

また、令和3年度より名古屋市瑞穂公園陸上競技場の改築工事が始まり、選手の皆様方に変なご不便をおかけしております。予定では令和8年4月より新装の陸上競技場で競技会開催が可能になります。近代的な新しいスタジアムに生まれ変わります。ご期待いただくと共に、今しばらくのご協力を賜りますようお願いいたします。

さて、今年度の本県選手の活躍の一部を紹介します。7月のオレゴン世界選手権では、男子20km競歩で山西利和選手(愛知製鋼)が金メダルの2連覇を達成し、オリンピックに続くメダル獲得となりました。また、男子4×400mRで川端魁人選手(中京大クラブ)が日本新記録で同種目の世界選手権最高成績の4位入賞を果たしました。両名の活躍は愛知陸協として大変名誉なことであり健闘を称えたいと思います。

8月の徳島インターハイでは、中京大中京高が女子総合優勝で2連覇達成。同校は、4×100mR、女子100mで藏重みう選手、女子100mH・七種の林美希選手が優勝しました。選手、監督をはじめ皆様方の弛まないご努力に対し敬意を表したいと思います。その他、女子走幅跳では松村琴都選手(瑞穂高)が優勝しました。同じく8月に福島の中日本中学校選手権男子800mで鈴木太智選手(東陽中)が優勝しました。

10月の「いちご一会とちぎ」国体では、皇后杯4位、天皇杯12位と健闘。個人種目では、成年女子5000mで山本有真選手(名城大)、少年女子A100mHで林美希選手(中京大中京高)が優勝しています。国体で優勝した林美希選手はU20、インターハイ、U18のそれぞれの全国大会で完全制覇を成し遂げ、選手ご自身の健闘を称えると共に将来への期待が大きく膨らみます。

駅伝関係では、10月に宮城で開催された全日本大学女子駅伝で名城大学が史上初の6連覇の偉業を達成しました。心より拍手を送りたいと思います。1月の全国都道府県駅伝で、愛知県勢はよく健闘し、女子が8位入賞、男子は21位の結果でした。今後の一層の飛躍を期待いたします。

愛知陸協では、今年度も有望な若い選手の成長が著しく、来年度以降の活躍を期待したいと思います。指導者の皆様方のご尽力の賜物と深く感謝致しております。最後にウィメンズマラソンが盛況のうち無事に終了しました。ご協力いただいた審判員をはじめ関係者の皆様方に厚くお礼申し上げます。

## アジア大会へ向けて瑞穂グラウンド改築中

2026年秋の「第20回愛知・名古屋アジア大会」へ向けて、瑞穂公園陸上競技場が改築されつつあります。(まだ建物が無くなった段階ですが) 詳しくは「名古屋市瑞穂公園陸上競技場整備等事業 施設整備業務」をご覧ください。



工事中のようす



完成予想図 「©2021(株)瑞穂 LOOP-PFI」より

## 専門委員会報告

### 総務委員会

2023年度の登録が3月8日から始まりました。

2023年度から、登録方法が2022年度のものに比べ、大きく変わっています。

一例をあげると、登録料の支払いがクレジットカードやコンビニ決済となります。

紙面では紹介できませんので、日本陸連または愛知陸協のHPにて登録方法を確認の上、登録手続きを行なってください。

公認の陸上競技大会等に審判員・競技者として参加するためには、愛知陸協に登録、日本陸上競技連盟の登録会員になる必要があります。新規または継続の登録手続きをお願いします。

2023年度の登録担当者・申請先を掲載します。(転勤等で、担当者の所属先が変わる場合があります。)

#### 一般団体・個人

尾張	門脇 良佑	尾北高等学校
名古屋	赤司 学	名東高等学校
西三河	坂野 文昭	banno.fumiaki@gmail.com
東三河	山本 誠司	豊丘高等学校

#### 大学生

全 県	愛知陸協事務局	052-249-4363
-----	---------	--------------

#### 高校生

尾張	浜田 倫昌	津島北高等学校
名古屋北	小林 諭	山田高等学校
名古屋南	小田垣充雅	名古屋女子大学高等学校
知 多	佐藤 洋平	東海樟風高等学校
西三河	小野田 基	三好高等学校
東三河	矢野 貴也	豊川工科高等学校

#### 中学生(学校・クラブ・個人)

尾張	山内 紀行	古知野中学校
名古屋	三浦 雅史	吉根中学校
愛日・知多	才賀 寛樹	日進中学校
西三河	伊藤 禎浩	城北中学校
東三河	岡田 淳史	豊橋・青陵中学校

#### 小学生友の会

尾張	八代香津子	kazutomolevel@yahoo.co.jp
名古屋	伊藤慎之介	nagoya.k5610018@gmail.com
西三河	小林 良博	seisantomonokai003@yahoo.co.jp
東三河	手嶋 修次	Cxj14503@yahoo.co.jp

(水野 隆夫)

### 競技委員会

コロナ対策を取りながらの競技会も、競技役員の方々に協力いただき、無事終わることが出来ました。ありがとうございました。

2022年度シーズンも穂の国・豊橋ハーフマラソンを最後に幕を閉じます。残念ながら、読売・犬山ハーフマラソンはコース上のトンネル内壁の剥落により中止となりました。

パロマ瑞穂スタジアムの改築も建物がなくなり、土台作りに取りかかっています。

2026年のアジア大会に向けて、若い審判の方々に力を付けていただきたいと思います。ベテランの方のご指導の下、愛知陸協、力を合わせて行きたいと思っています。是非ご協力宜しくお願いします。

2023年度は陸連の登録方法が大きく変わり、混乱を伴うスタートとなりました。各競技会に関しても変更があるときがあります。申し込み等は、陸協ホームページで大会要項や競技注意事項をよく確認して間違いのないようにしてください。

審判伝達講習会などで新たなルールの確認をしていただき、2023年度の競技会がスムーズに行なえるようご協力をお願いします。また一部の大会では、特別なルールを適用する事もあるので、大会要項や競技注意事項で確認をしてください。

一年を通して、愛知では一般から小学生の競技会まで幅広く陸上競技が行なわれています。多くの競技者が出場しそれを支える競技役員、競技補助員によって競技が運営されています。それぞれが協力し合って、競技者がよい環境で競技できるようにご協力をお願いします。

(榊原 茂)

### 施設・用器具委員会

#### 1.「自転車計測員実技研修会(中部・東海ブロック)」を愛知・名古屋で開催

陸連の計測員(検定員など)になる条件の1つに、2年毎の研修会に参加することが必須となっています。ここ数年、新型コロナウイルス感染拡大予防を目的として、陸連が主催する講義等については基本的にWeb開催となっており、全国の計測員一同が集まっての実技開催が困難になっています。

そこで、昨年からは地域ブロック毎に集まり、少人数で実施する形式となりました。中部・東海ブロックは、本県が会場担当となっており、12月10日(土)に庄内緑地公園で行ないました。当日は、陸連の福島氏(A級)と愛知の桑原氏(B級)を講師に、南技術役員と平川を含む近隣府県から12名が集まり、工藤(陸連)、村瀬(愛知)、松田(岐阜)、飯嶋(三重)の4名の協力を受け、自転車によるマラソンコース等の計測方法について研修を積みました。



桑原氏の説明を聞く南氏と他の計測員諸氏(撮影:村瀬技術役員)

## クラブ紹介⑤2 FKN 陸上クラブ

FKNとは、Future Kids Nagoyaの頭文字で、子どもたちに陸上を通じスポーツで未来の可能性を広げて行ってほしいと言う意味合いが込められています。FKN陸上クラブは2020年1月に小・中学生対象の陸上クラブとして発足したまだ新しいチームです。元々は低学年向けのかげっこ教室を名古屋市南区で行なっていましたが、だんだん教室の子が大きくなり本格的に陸上競技ができる所を作ろうと思い設立しました。

最初は10名程度でこじんまりと練習をしていましたがだんだん人数も増え、今では67名の選手が在籍し県大会上位入賞者や昨年は東海大会で優勝する子もでてきました。

練習は月・火・水・木・土と名古屋市南区を中心に瑞穂北陸や中学校のグラウンドで実施しておりますが、そこまで本格的な練習は行なっておらず、あくまで「楽しく走る」事をメインにしています。時には練習時間の半分を鬼ごっこ等に費やす時もあります。

また指導者としては、高校や大学、またその先でも陸上

競技を続けて欲しいと考えております。その為小学生の内から高いレベルの練習を見せたいと思い、年に2回程知り合いを通じて高校や大学にお願いし合同練習をさせていただいています。ただコロナの関係もあり中々合同で練習できる所も少ないので、もし合同練習できる所がありましたらご連絡を頂けると嬉しいです！

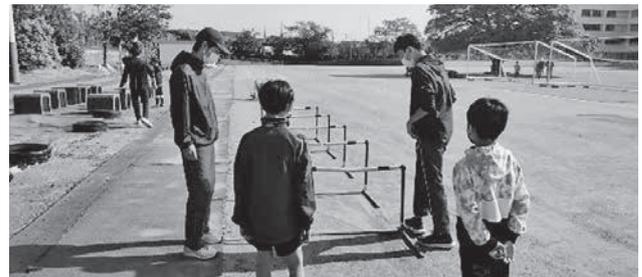
その他にも県外の大会に出場したり夏・冬の合宿をしたりして、子ども達に少しでも陸上の楽しさや可能性を提供していきたいと考えています。

連絡先メールアドレス fknrikujyo@gmail.com

(クラブ代表 加藤 翼)



クラブ設立当時



合同練習の様子

### 2. 穂の国・豊橋ハーフマラソンコースの公認を更新

感染症対応のため3年間公認大会を実施しておらず、コースの公認継続の可否を検討しておりました同大会ですが、今年3月は公認大会として実施することが決まりました。

この決定を受け、12月24・25日に、陸協から平川、南、桑原、村瀬の4名と東三陸協から鈴木、兵藤、中村の3名ほか事務局の方々の協力で、怪我や事故も無く無事に計測を実施することができました。結果は、6.96m短く計測されたため、フィニッシュ地点を延ばして調整しました。

第13回大会は、3月26日(日)10時スタートです。

### 3. 名古屋ウィメンズマラソンコースの部分計測を実施

名城公園内の野球場跡地に愛知県体育館を新築移転することが決まり、その建設に伴い市営地下鉄名城公園駅から地上に出ること無く直接体育館にアクセスできるよう地下通路を新設することとなりました。そのため中央分離帯側の車線が往路復路共に2車線ずつ規制されました。その結果、今年度の大会では規制区間の緊急車両通行帯の設置を取り止め、給水地点が規制区間外に移動しています。

この変更による部分計測を、1月20・21日に25km地点～35km地点で行ないました。今回の計測は、諸般の事情

により平川(C)、南(研修)、桑原(B)、堀(岐阜:研修)、福島(A)の自転車5台の順で計測することになり、県警の随行パトカーを2台(本部, 中署)出していただきました。当委員会の村瀬、青木、砂子間、吉越、世古の5名とマラソン事務局の方々にも手伝っていただき、これも無事に計測を実施することができました。

結果は、1.83m長く計測されたため、第2折返し「康生通2」交差点で短く調整しました。ここ以外での、kmポイントには変更ありません。

(平川 貴之)

## 審判委員会

2022年度の各種競技会へのご協力、誠にありがとうございました。本年度もコロナ対策を続けながらの開催で、何かとご心配やご不便をおかけしながらの運営になりましたが、大過なく競技会が実施できたことに、紙面を借りてお礼申し上げます。2023年度も引き続きご協力を賜りますようお願いいたします。

### 1 審判資格昇格者について

先日、日本陸連から次の6名の方々のS級公認審判員

昇格の通知がありました。

名古屋地区	可知 裕行 様		
西三河地区	石鎚 一則 様	阿部 哲也 様	
	山村 晃泰 様	谷寄 好美 様	
東三河地区	井上 兼久 様		

また、A級公認審判員昇格者につきましては、尾張地区1名、名古屋地区3名、西三河地区5名、東三河地区2名の方々が本協会理事会にて承認されました。

さらに本年度のB級公認審判員合格者につきましては、前期14名、後期37名でした。来年度の各種競技会へ積極的に出席していただき研修を積んでください。

さて審判員資格の昇級につきましては、ご承知のとおり、一定数の競技会への出席と各地区で毎年3月中下旬に開催される審判伝達講習会への出席が必要となりますので、ご参加をお願いします。

**2 競技会における確認事項について（競技会で起きた事例より）**

1月28日（土）開催のJTO研修会、2月12日（日）開催の全国競技運営主任者会議において取り上げられた事例について共有しておきたいと思っております。大会名等の公表は控えさせていただきますが、女子三段跳の計測に疑義が生じ、TOP8選出に対して複数のチームから抗議があがり、上訴へと展開していきましたが、 Juryによる最終的な裁定に対して収まりがつかない結果となってしまいました。この件から競技運営上2点の問題点が取り上げられ、整理されました。

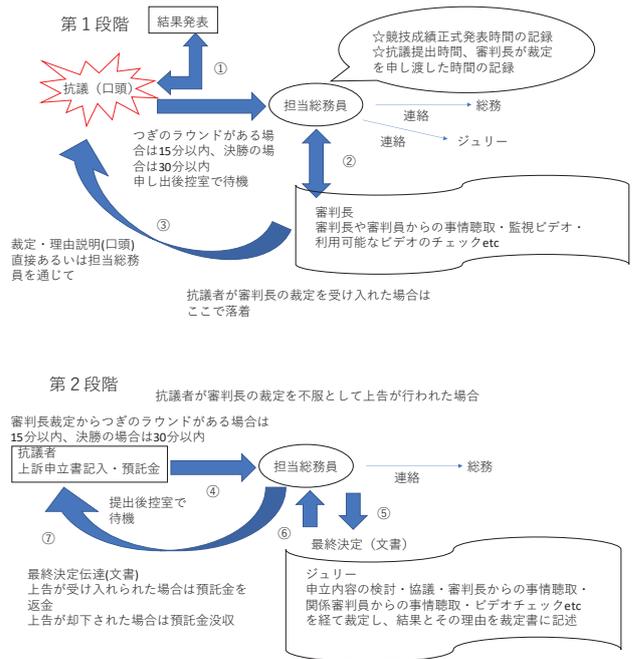
1点目はEDM（光波距離計測装置）が正しく作動しているか、痕跡側の審判が正しくピンやプリズムを固定しているかの確認が徹底できているか、ということであります。

現在、競技終了後の再度の計測は必要なしとなっておりますが、2023年度は競技終了後の再度の計測が必要となります。ただし、鋼鉄製巻尺との一致の確認は競技開始前のみで、競技終了後は複数の箇所にゴルフのティー等をマークしておき、その定点をEDMの測定で競技開始前と一致するかどうかを確認する方法となります。

また、競技中に不具合が発生することに対しても、1回ごとに記録がおかしくないかを計測員や痕跡担当の審判などが注意を払っておくことも必要という意見もありました。

2点目は抗議が発生したことに対し、規則に従った対応ができていなかったことでもあります。抗議を受け付けるルートが曖昧であり、複数になり、 Juryの裁定が審判長の判断を飛び越える形になってしまったことが、問題を複雑化しました。

今一度ルールブックのTR8、「抗議と上訴」およびハンドブックP100～P105を確認願いたいと思っております。下記にはハンドブックより抗議対応の流れを抜粋しました。 Juryのいない競技会では、総務（もしくは総務員）が Juryの代行をしてください。また、審判長に直接口頭抗議しても問題ありません。



(伊藤 明久)

**選手強化委員会**

**皇后盃第41回女子・天皇盃第28回男子全国都道府県対抗駅伝報告**



年末年始の代表者合宿を経て、令和5年1月15日（日）女子駅伝が京都で、翌週22日（日）男子駅伝が広島で開催されました。男女ともに最終合宿前後からの体調不良者・故障者が数人出てしまい、いつも以上にチームワークが試される大会となりました。女子については第38回大会で、連続入賞（優勝2回）を10年で止めてしまい出直しを誓い、第39回大会中止を挟んで昨年行なわれた第40回大会で7位入賞と新生チーム愛知をスタートさせての2年目でした。毎日スタッフミーティングを開き、最良のオーダーについて話し合いを続けて決定した区間配置でした。試走・カテゴリー別ミーティングを通して徹底されていたレース展開別の走り方も想定しました。当日は選手一人ひとりの意地と愛知県代表である誇り、そして何よりここまで大切にしてきたチームワークを信じレースを見守りました。作戦どおり1区山本有真選手の見事な先頭争いからの2位（トップとの差2秒）でのタスキ渡し。2区吉田莉帆選手・3区杉浦華夏選手・4区鷺見梓沙選手・5区中馬蘭奈選手・6区森 彩純選手・7区前田彩花選手・8区渡邊真瑚選手と全員が粘りの走りを見せてくれ、常にトッ

プグループが見える位置でのレースを展開してくれました。その中でも山本選手の区間2位に続き、各区間一桁順位で快走してくれた3人(鷺見選手4区8位・森選手6区2位・前田選手7区6位)の姿は、チームメイトに力を与えるとともに、県民の皆様にも興奮と楽しむ時間を提供できたのではないのでしょうか。9区磯部選手は、公式戦初の10kmを走るという期待と不安の観戦でありましたが、仲間が繋いだ入賞圏内の走りが見事彼女の背中を押し、2年連続入賞といううれしい結果を出してくれました。新生チーム愛知は苦しい中でも粘りを見せ、2年連続入賞を果たしてくれました。



翌週の男子は雪の心配がされる中での開催でしたが、比較的暖かい中での大会となりました。こちらは1区河野温喜選手に、トップとの差30秒以内での走りを期待してのスタートでした。ほぼ設定どおりの、冷静かつ粘りの走りをしてくれました。2区・3区と少しずつ位置を上げ、入賞圏内8位の背中が見える位置まで押し上げる作戦でしたが、大きな大会の経験がない2区坂田剛選手に、少し重い責任を背負わせてしまったのか、緊張から彼本来の走りができず順位を下げる結果となってしまいました。今回のこの経験が、またチーム愛知に戻りリベンジしてくれることでしょうか。3区田中秀幸選手には、経験豊かなベテランの走りで、大幅な順位上げが期待されていましたが、タスキを渡された位置が、彼には前半から追い上げるレースしか選択肢がない状態となってしまう、申し訳ない負担をかけることとなってしまいました。4区・5区にはチーム愛知のツインズ、平松龍青選手・享祐選手の登場でした。互いをライバルとし切磋琢磨してきた2人は、お互いの力を信じて走り抜き、少しずつ順位を上げながらタスキを6区へと繋いでくれました。6区鷺見龍之介選手も坂田選手同様大きな大会は初経験で、期待と不安の入り混じる観戦となりました。5区とのタスキ渡しの際接触があり、スタートと同時に転倒してしまうハプニングに見舞われてしまいました。すぐに立ち上がり、先行するチームを追いかけて必死に頑張ってくれました。第6中継所に現れた鷺見選手の膝は、真っ赤に鮮血に染まっていました。仲間が運んだタスキを繋げなければという強い思いが、7区近藤幸太郎選手のところまで走らせたのだと感じました。7区アンカー近藤幸太郎選手にも彼本来の走りをさせてあげられず、前半から攻めて1つでも順位を上げるための走りとなってしまいました。結果すべての区間で、それぞれの持ち味を生かすレースはできず、残念ながら総合21位という悔しい結果となってしまいました。レース後の一般選手2人に言わせてしまった「8位入賞できずに申し訳ありま

せんでした。」の言葉は、申し訳ない思いと同時に、入賞するために真剣に調整し、本気で走ってくれた気持ちが伝わってきました。もっともっとチーム一丸となって、8位入賞(もちろん優勝を目指し)という目標に対して常に意識をしていくことを決意させてくれました。来年の広島に向けて、チーム愛知は頑張ります。

各区間成績は次の通りです。

#### 女子 総合成績 2時間18分47秒 第8位 F:ふるさと選手

区間	氏名(所属)	記録	区間順位
1区	山本 有真(名城大学)	19分16秒	2位
2区	吉田 莉帆(豊川高校)	13分10秒	24位
3区	杉浦 華夏(西端中学)	9分43秒	19位
4区	鷺見 梓沙(ユニバーサル)F	13分18秒	8位
5区	中馬 蘭奈(豊田大谷高校)	13分36秒	13位
6区	森 彩純(豊川高校)	12分52秒	2位
7区	前田 彩花(愛知高校)	12分43秒	6位
8区	渡邊 真瑚(千郷中学)	10分18秒	13位
9区	磯部 早良(豊田自動織機)	33分51秒	33位

#### 男子 総合成績 2時間21分03秒 第21位

区間	氏名(所属)	記録	区間順位
1区	河野 温喜(名経大高蔵高校)	20分39秒	28位
2区	坂田 剛(平坂中学)	9分06秒	41位
3区	田中 秀幸(トヨタ自動車)	24分12秒	22位
4区	平松 龍青(中部大第一高校)	14分35秒	13位
5区	平松 享祐(中部大第一高校)	25分12秒	14位
6区	鷺見龍之介(熊野中学)	9分17秒	34位
7区	近藤幸太郎(青山学院大学)	38分02秒	9位

本年度も多くの方々からたくさんの激励とご厚情を頂きありがとうございました。特に広島では3年ぶりの開催ということもあり、県人会の皆様以外にも広島県民の方々からも、たくさんの激励を頂きました。感謝とともに込み上げたあの思いは、今後チーム愛知が頑張る原動力の1つとなることでしょうか。

大会関係各位、ご配慮頂いた所属チームの皆様方には、深く感謝するとともにこの場を借りてお礼申し上げます。今後ともご理解・ご協力をお願い申し上げます。

(明星 光信)

## 記録・情報処理委員会

コロナ禍もようやく先が見え、競技会の開催も次第に平常を取り戻しつつあります。そのような状況で新しい競技会も増え、競技会のファイル作成や事後の記録送信などの業務の増加に適切に対応していただき感謝しております。年度当初の競技会への申込において、競技者のID、生年月日、名前の英文字表記などに不備も目立つようになっております。ワールドランキングへの迅速な申請の障害になってしまいますので、年度当初の競技者データをご確認のうえ、競技会への申込をお願いいたします。

## 学校訪問④⑧

## 阿久比町立阿久比中学校

今年度全国中学校駅伝競走大会  
女子の部県代表

今回は、今年度の県の中学校駅伝競走大会女子の部で優勝し、全国大会に出場した阿久比中学校を訪問しました。阿久比中は、県大会では2位に35秒の差をつける圧勝でした。県大会で2区を走って区間賞を獲得した古川蒼桃選手は、1月に行なわれた県の市町村対抗駅伝の町村の部の1区でも区間賞(市の部を合わせても3位)を獲り、阿久比町が町村の部で一度も首位を譲ることなく優勝するという結果に貢献してもいます。

阿久比中の強さを語るにおいて絶対に外せないのは、「地の利」です。阿久比町には400m5レーンの全天候型グラウンドに野球場が併設された阿久比スポーツ村があります。学校からは自転車で10分ほどの距離です。阿久比町外の人の利用には有料ですが、阿久比中の選手には無料で利用できる施設です。主顧問の武馬有佑先生によると、休日や夏休みなどの長期休業中の部活動は全てこの施設で行なっているとのことでした。県内の私立高校の中には校内に全天候型トラックが備わっている学校もありますので、最強の「地の利」というものでもないのかもしれませんが、最強の部類と言っていいでしょう。訪問した1月下旬の土曜日は練習開始予定の時間に遅れたわけではないのですが、多くの選手ががんがん走っていました。それは阿久比中の選手ではなく、阿久比高校の選手たちでした。阿久比高校の顧問の先生のお話では、阿久比高校の他にも半田高校、半田東高校、横須賀高校なども利用することがあるとのことでした。この話を武馬先生に振ってみると、「高校生の練習を目の当たりにして刺激を受けていることでしょう」とおっしゃっていました。



バックストレート側トラック

二つ目は指導体制の充実です。武馬先生の他に副顧問の小杉まい先生がいらっしゃるのによくある形ですが、訪問した日にはもう二人の成人の方がみえました。お聞きしてみると、中長距離担当の外部コーチの濱崎政伯さんと古川千歩さんでした。濱崎さんは愛知製鋼で走っておられた方だとのこと、お二人の存在は短距離経験者の武馬先生にとって、また阿久比中の中長距離の選手にとっても大きな力となっているのでしょうか。普段の学校の部活動では中長距離も武馬先生が指導しておられるのですが、休日のスポーツ村での練習では種目別の練習の内容をお二人のコーチの方にゆだねておられるようです。

もう一つ、中長距離の選手に限った話ですが、阿久比町の市町村対抗駅伝に向けた練習会への参加を挙げておくことができます。阿久比町では毎週のように水曜日と金曜日の6時30分から市町村対抗駅伝に向けた練習会を実施しており、その練習会に阿久比中の選手も参加しているのだそうです。世代を越えた選手との練習会の中で、阿久比中の選手たちは着実に力を付けてきたのだろうと私には思われました。6時30分からは暗くて練習にならないと思われるかもしれませんが、グラウンドには照明施設が整備されており、阿久比町が町村の部で初優勝した年に設置されたのだそうです。阿久比中の活躍は、阿久比町に後押しされたものでもあると言えましょうか。



ミニハードルドリル

さて訪問日の練習ですが、10時から阿久比町主催の小学生のための陸上教室が予定されており1時間半という短い活動でした。短いものではありませんでしたが、動きづくりのドリルに50分ほどが割かれていたのでしょうか。40名ほどの選手を4つのグループに分けてミニハードル、ラダー、ハードルドリル、歩行ドリルと順繰りに移動しながらドリルが丁寧に効率よく行なわれていました。それぞれのドリルにおいて例えばハードルドリルではハードル跨ぎ越し、左右抜き脚ドリル、一步ハードル、ハードルジャンプなど多種目にわたる内容があり、短時間では消化仕切れないものになっていました。発達途上にある中学生の特性を十分に理解した武馬先生のお考えがよく現れた形だと思つとも部に部員数の多さが部活の活気を生んでいるとも思いました。部員数は、地域の野球やハンドボールのクラブチームに所属して平日だけ陸上部で活動している選手を含めて1、2年生総勢53名とのことでした。部活への所属は希望制で強制ではないのだそうですが、1学年10クラスの大規模校ゆえの部員数だと思いました。やはり、数は力だと言えましょうか。種目に別れてからは短距離グループが150m×2、(100m+200m)×2、中長距離グループが1000m×2でした。



ラダートレーニング

ここまで強さの秘訣を書き連ねてきましたが、来年度にはマイナス要素が立ちだかるのだそうです。教員の多忙化解消のために早朝練習が禁止になったり、部活の終了時刻が30分早まったりするのだそうです。また将来的には部活動の地域への移行が全国に先駆けて実施されることも検討されているのだそうです。こうした問題は全国各地の中学校が直面する問題になるかと思われそうですが、地域との連携の中で新しい体制が生まれ部活熱が下がらないことを祈るばかりです。一方で全天候型トラックの張り替えが予定されていたり、グラウンドの周辺にクロスカントリーコースの設置が検討されていたりというプラスの要素も控えているのだそうです。武馬先生は赴任3年目とのことで、この過渡期に真正面から取り組むこととなります。これは、阿久比中学校陸上部にとっては幸いだなあとは思いました。それよりも何よりも全中の大会を走った5人の選手のうち卒業するのは1人だけで、冒頭に名前を挙げた古川選手をはじめ4人の選手が残っています。愛知県勢は令和元年度に六ツ美北中学校が女子の部で全国制覇を成し遂げていますが、その再現を願わずにはられません。

(取材・文責・写真 大西 敏功)

2022年10月以降日本陸連データベースで確認できた日本記録・県記録および未掲載分

#### 一般女子

「日本記録」

5km (wo) 15.34 田中 希実 (豊田自動織機)  
[The Fst in Fukuoka 2022 (大濠公園オーバル) 2022.11.22]  
wo:女子単独レース

#### 一般男子

30kmW(途中) 2.04.57 山西 利和 (愛知製鋼)  
[第59回全日本35km競歩高島 (高島まほろば) 2022.10.23]  
2.05.42 丸尾 知司 (愛知製鋼)  
[第59回全日本35km競歩高島 (高島まほろば) 2022.10.23]

#### 高校男子

200m 21.04 (+0.5) 高橋 大地 (中京大附中京高)  
[エブリバディデカスロン in 愛知 (瑞穂北) 2022.11.12]

#### 中学男子

三段跳 13.26 (+1.0) 荻野 斗駿 (竜南中)  
[愛知県ジュニアオリンピック (瑞穂北) 2022.09.03]  
4×100mR 41.81 愛知中学選抜  
(中島 悠太・巻口 周平・内藤 翔真・小野 真大)  
[みんなでつなごうリレーフェスティバル 2022 (国立) 2022.10.02]

#### 中学女子

150m 18.50 (+0.4) 布施 一葉 (豊橋高豊中)  
[JOCジュニアオリンピックカップ第53回U16競技会 (愛媛県総合) 2022.10.22]  
(石鎚 一則)

## 各地区報告

### 名古屋地区陸上競技協会

#### <陸上教室>



長田選手のクリニックの場面



投てきは2年ぶりの開催

名古屋地区の陸上教室は、物産フードサイエンス 1969 知多スタジアムで3日間 (そのうち投てき種目は2日間) 小・中・高校生多数の参加で開催しました。ブロック別に基礎・基本を中心とした指導が熱心に行なわれ、例年に増して大変盛り上がりのある教室となりました。特に今回は大学生の参加者が多く、将来の指導者育成にも大いに貢献できたと思います。

ゲスト指導者として、200m 県記録保持者の長田拓也選手、今年度愛知県チャンピオンの湯上剛輝選手 (円盤投)・古旗崇裕選手 (ハンマー投)・坂本達哉選手 (やり投) の

4選手をお迎えし、クリニックが行なわれました。トップアスリートに直接指導してもらい練習に取り組む姿勢などを聞いたりすることは、選手やコーチにとって技量を高める大きな財産になったと思います。今後も招待を続け、魅力ある陸上教室で参加者を増やし、競技人口を増やすと同時に競技力の向上に貢献できればと思います。

(可知 裕行)

#### <クロスカントリー大会>



実業団選手の優しい伴走



広芝生は最高のクロカコンコース

2月23日(木・祝)尾張旭市の愛知県森林公園で、「第1回名古屋地区クロスカントリーレース in 尾張旭」を開催しました。公園内の広芝生に1周750mの周回コースを作り、小学4年生の0.75kmから高校生3kmまでの男女10のカテゴリーで全部で16組のレースを実施しました。周知が遅れ参加状況も心配されましたが、約270名の参加でした。今回、3000mSCの山口浩勢選手をはじめ名古屋地区内の実業団チーム10名のゲスト参加もあり、すべての組で一緒に走っていただき、参加選手もゲストも互いに刺激となる大会となりました。レース後にはサインを求められたゲストも、楽しい時間が共にできたと満足顔でした。好天にも恵まれ、終始和やかな雰囲気で開催することができました。大会開催にあたり、尾張旭市と瀬戸陸協等関係者のご理解とご協力に厚くお礼申し上げます。次年度は今回の会場が工事となり、開催日や場所を変更せざるを得ない状況ですが、第2回大会開催を目指して準備を進めてまいります。



あこがれの選手との記念写真  
(安田 純久)

### 尾張陸上競技協会

今年度の尾張陸上教室は2月5日(日)、県営一宮総合運動場(いちい信金スポーツセンター)にて開催しました。予定していた12月11日(日)、1月8日(日)が中止になり、予備日の3月5日(日)を合わせて2回の開催でした。感染対策もあり、例年の全日単位から午前、午後に分けての教室は効率的に実施されました。

今年度最後の競技会である第70回尾張駅伝競走大会は、1月15日(日)に県営一宮総合運動場および周辺コースで実施しました。昨年度に続き、天候に恵まれた中で大会でした。結果については下記のとおりです。

#### 一般男子の部 (21 km)

- 1 むまちゃんず A
- 2 むまちゃんず B
- 3 AC 一宮

高校男子の部 (21 km)	高校女子の部 (18.9 km)
1 津島東	1 愛知黎明
2 愛知黎明 A	2 一宮西
3 愛知黎明 B	3 一宮

中学男子の部 (14.7 km)	中学女子の部 (14.7 km)
1 大口 A	1 宮田
2 宮田	2 AC一宮 Junior
3 AC一宮 Junior A	3 大口 A

今年度は競技会の参加人数がかなり減少し、陸上競技離れが心配されました。尾張陸上競技協会としても、令和5年度は魅力ある競技会を新しく計画しています。多数の参加を期待しています。尚、県営一宮総合運動場は公認更新部分工事の為、令和5年11月1日から令和6年3月15日の間、利用不可となります。練習場所に苦慮されるかと思いますが、ご理解のほどよろしく願いいたします。

(青山 充資)

## 西三河陸上競技協会

西三河陸上競技協会顧問で元会長の鶴田政之先生が昨年お亡くなりになりました。我々に陸上競技に関して多々ご指導くださったのみならず、西三河地区の陸上競技の発展にご尽力くださいました。コロナ禍という状況下で、お別れもできませんでした。今年に入り、先生のお宅を教え子の皆さんや安城陸協の方々とともににお訪ねし、西三陸協代表として、生前のご指導への感謝の思いを伝え、ご冥福をお祈りしてまいりました。お伺いした折、先生の現役時代のトロフィーや陸上に関する数々の栄章授章等の記念品を目の当たりにし、あらためて先生の偉大さを認識いたしました。

鶴田先生は以前から旧安城陸上競技場跡地に記念碑の建立を望んでいらっしゃったそうです。グラウンドから遠のかれていた2020年10月に、昔の安城公園陸上競技場の写真がテレビ番組で放映されたそうです。現在、その地には陸上競技場の面影は全く残っていませんが、テレビ番組での放映がきっかけとなって、安城クラブ(安城陸上競技愛好者クラブ)の方々を中心に、記念碑建立の機運が高まりました。そして、昨年8月20日に記念碑と案内板が完成し、竣工式が行なわれました。

旧安城公園陸上競技場は、1950年の第5回国民体育大会開催を契機に、1949年、現在市役所となっている場所に第3種陸上競技場として建設されました。当時は瑞穂公園陸上競技場に次ぐ、県下2番目の競技場でした。安城市や西三河地方のみならず、愛知県の陸上界の発展と選手育成に寄与してきたグラウンドであると思っています。その後、1965年11月に現在の安城市陸上競技場が完成するまで、使用されてきました。



記念碑と案内板

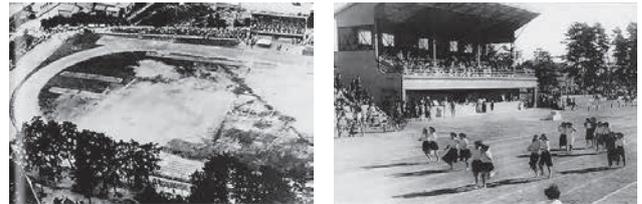


案内板裏面

記念碑と案内板の設置場所は、旧競技場跡地で、桜町の安城公園内(市役所裏駐車場と池の間)です。近くへお越しの際は、西三河陸上界の発祥の地と言っても過言ではないこの場所をお尋ねになってはいかがでしょうか。案内板には、旧陸上競技場での大会の様子や現陸上競技場新設の経緯などが紹介されています。その横に建つ記念碑には、鶴田先生のグラウンドへの思いが刻まれています。

「あゝ懐かしき安城グラウンド友あり、汗と涙あり、松風よ、ひょうたん池よ、グラウンドの子はみんな力強く生きております。グラウンドも新しく生きております。みんなみんな感謝の日」

有難うございました。合掌



旧競技場風景

(櫻井 一美)

## 東三河陸上競技協会

新型コロナウイルスのため無観客での大会から始まった2022年度ですが、途中から感染に十分に気をつけて、制限付きながらも観客を入れた大会も実施できるようになりました。来年度はウィズコロナが定着して、声を出して集団での応援もできるようになってほしいものです。さて今年も私の独断で東三河陸協の10大ニュースを作ってみました。

### ☆第1位 全国中学総体で東三河中学生が大活躍

8月18日～21日に福島で行なわれた全日本中学校陸上競技選手権大会に、8校から8名が出場を果たしました。鈴木太智選手(東陽)と小倉天心選手(南陽)が男子800mで1位・2位を独占し、木林悠翔選手(豊川東部)が男子200mで6位に入賞しました。豊橋の中学生が全国大会で1位・2位を独占したのは、1971年のジュニアオリンピック陸上で大場謙祐選手(豊橋中部)と中島学選手(羽田)が男子200mで達成して以来の快挙です。

### ☆第2位 箱根駅伝で東三河出身選手が快走

エース区間の花の2区で、田原東部中出身の吉居大和選手(中央大)と豊川工高出身の近藤幸太郎選手(青山学院大)が、駒沢大と激しい首位争いを展開し、吉井選手は区間賞を近藤選手が区間2位の快走で箱根駅伝を大いに盛り上げました。

### ☆第3位 高校総体での東三河高校生の活躍

8月3日～8月7日に徳島で行なわれた全国高等学校総合体育大会に、4校からリレー2チームと個人11名が出場を果たしました。そして、夏目紗彩選手(豊川)が女子400mHで5位に入賞し、矢野夏希選手(時習館)が女子走高跳で8位に入賞しました。

### ☆第4位 全国小学生交流大会での東三河小学生の活躍

8月20日に神奈川で行なわれた全国小学生交流大会に、豊川陸上クラブが男女混合4×100mRに初出場して4位

に入賞しました。

#### ☆第5位 石場 治新理事長決定

1月4日の理事会で、7期14年務められた兵藤重二理事長と仲井雅弘副理事長の退任と次期石場 治理事長と岩村英幸副理事長が決定しました。

#### ☆第6位 3年ぶりの愛知駅伝で熊本くるみ選手（豊川）が5区、近江衿香選手（豊橋）が6区で区間賞

#### ☆第7位 豊川高校女子が3年ぶり13回目の全国高校駅伝大会出場

#### ☆第8位 穂の国豊橋ハーフマラソンの公認コース更新決定

#### ☆第9位 中部・北陸実業団駅伝3年ぶりに有観客で実施

#### ☆第10位 渥美半島駅伝3年ぶりに実施

来年度は、鈴木政男会長と石場 治新理事長を中心として東三河陸上競技協会の会員全員の力で、コロナに負けずに東三河の陸上競技を盛り上げていきましょう。

(兵藤 重二)

者の付き添いも招集所まで、そこからは、審判の先生の言葉を通訳者が伝える以外は、ほかの選手と同じです。大会用のスターティングブロックの使用が初めてということで、使い方をスタート前に教えました。腰ナンバーも自分で付けて、さあスタートです。保護者から「周りの子の動きを見てスタートします。」という言葉は聞いてはいましたが、やはりスタートが一番の心配な点でした。周りを見てからのスタートでどうしても遅れますが、どんどん追いついて2着でゴール。県大会参加標準記録も突破し、大喜びでした。石田君の最高の笑顔は今も忘れることができません。県大会は、残念ながら組で最後でのゴールとなりました。ゴール後、石田君が保護者に最初に伝えたことは「友達はスパイクを履いていたけど、僕は運動靴だから勝てない」と、スパイクをお願いしていました。子どもらしくとてもかわいかったです。来年、スパイクを履いて元気いっぱい走る石田君を見ることができのを楽しみにしたいと思います。そして、お友達もどうぞ誘って出場してください。お待ちしております。

実は、石田君のお父様は、デフ大会で活躍されています。大会後、「聾者の子供達に体力作りも含め、陸上の基本を指導する場を設けたいと考えています。」とメールを頂きました。友の会も協力し応援していきたいと思っています。

(谷崎 好美)

## 関係団体報告

### 小学生友の会

2022年度の小学生大会も皆さんのおかげで予定どおり終了しました。ご協力、本当にありがとうございました。

今年度は新しい風が吹きました。4月、西三河小学生担当に「聾者でも大会に参加することはできますか？」とのメールが届きました。石田悠璃君（5年生）と言います。話すことと耳が不自由の様ですが、「どうぞ大会に参加してください」と快く迎えました。私たち小学生担当にとって聾者の参加は初めてのことで、運営上の戸惑いは多くありましたが、陸協の審判員や聾者大会経験の先生方に相談し、色々考えていただきました。基本的には通常の大会どおり

の中で、彼が皆と走ることができる様にサポートしようということにしました。レース以外のところで戸惑うことがない様にと通訳者に付いていただくことにしました。保護



石田君の県大会での力走



通訳者証

\* 通訳派遣の社会福祉センターに確認をし、手話マークを取り入れたものを作成

## 中小体連

来シーズンへ向けて

### ○県中学駅伝（11/12：豊田市総合運動公園）

本年度最後の主催事業となる県中学駅伝には、男子が岡崎市立矢作北中学校、女子は阿久比町立阿久比中学校がそれぞれ初優勝を飾りました。全国中学校駅伝大会は滋賀県の希望ヶ丘文化公園で行なわれ、矢作北中学校が27位、阿久比中学校が37位と初出場ながら力を発揮することができました。

また、愛知県中学校駅伝大会の開催にあたっては、西三河支部中体連の関係各位には絶大なご支援とご協力をいただきましたことを心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

来年度につきましても引き続き、豊田市総合運動公園での開催となります。よろしくご協力致します。

### ○次年度の大会予定

2023年度の愛媛全中から地域クラブ活動の参加が認められ、昨年度までとは異なる参加条件の下での開催となります。ただし、リレーに関しては、地域クラブ活動で出場の場合は、登録メンバー全員が同一学校に在籍している場合に限り、地域クラブ活動の所属で参加ができました。愛知県に関わる詳細については現在調整中です。

2023年度のU16陸上競技大会については、昨年度同様、愛媛県で開催されます。この大会の愛媛県での開催は、2023年度が最後となります。

東海中学総体は、三重県で開催されますので、各方面でのご支援ご協力を賜りながら、選手が日頃の成果を十分発揮できるように実施していきたいと考えております。

## ○次年度へ向け

中体連としては、一人でも多くの選手が全国大会へ出場できるように微力ではありますが、サポートや支援をしていきたいと考えています。少しずつではありますが、感染症も収束の兆しがみえてきました。通常の活動を取り戻しつつある状況です。しかしながら、この3年間で明らかに中学生の競技力は低下し、全国大会への出場者数も激減しているのが現状です。それらを回復させ、さらに向上させるためには各学校の指導はもちろんのこと、各地区の練習会や全県での協力体制が不可欠であると考えます。

今年度は、陸協ジュニア部で実施していただいているジュニア強化練習、各地区の陸上教室や練習会などは、延期や中止を余儀なくされることなく、感染対策を講じながら予定どおり実施できています。今後も、チーム愛知が一丸となって選手強化を行なっていきたいと考えています。

(秋山 真一郎)

## 高体連

## 令和5年度に向けて

3年ぶりに新型コロナウイルス対応が行なわれないう状況で、令和5年度のシーズンが始まろうとしています。しかし、大きなスタンドのある競技場がない中で有観客対応を考えると、令和5年度もなかなか大変で、不安要素がいっぱいです。令和5年度は愛知県で高体連として大きな大会が実施されませんので、状況を見ながら今後の対応を考えていきたいと思ひます。

来年度も総体、新人戦共にマルヤス岡崎龍北スタジアム

で開催します。西三河陸上競技協会様には多大なるご協力をいただくこととなります。ご協力をよろしくお願ひいたします。3年目の開催になり、運営にも余裕が出てきましたが、先にも述べましたように、マルヤス岡崎龍北スタジアムには大きなスタンドがありませんので、観客対応をいかにしていくかが大きなカギです。ライブ配信を続けながら、できる限り来場をご遠慮いただくよう保護者の方にはお願ひをせざるを得ないと考えます。皆様方のご協力をお願ひいたします。

令和5年度の東海総体は、静岡県開催です。また、全国総体は北海道にて開催されます。東海新人大会や愛媛県で開催されたU18陸上競技大会の様子を見ていますと、昨年度も数多くの愛知県代表選手が活躍してくれましたが、令和3年度に比べると若干の不安も感じています。東海4県ではここ数年は愛知県1強状態が見られましたが、他の3県も強化が進み、有望選手が多数出てきました。東海地区のレベルが大きく上がってきているように感じます。愛知県の選手も順調に冬季練習を実施できていると思ひますので、4月からの活躍を大いに期待したいです。徳島総体では女子5種目で愛知県の選手が優勝しました。その優勝者の中には2年生チャンピオンの中京大中京高校の林美希選手、瑞陵高校の松村琴都選手も含まれます。多くの選手が大いに活躍をしていただけることと期待をしています。男子選手の活躍も期待したいです。

昨年も書かせていただきましたが、コロナ禍もあり、陸上競技に参加する生徒数が毎年減少しています。愛知県高校生登録者数も2016年から約1400名減少しています。部活動の置かれている現状は決して楽観できるものではありません。

## ホープさん⑤②

## 鈴木 太智 選手 (豊橋市立東陽中学校)

彼の走りを初めて見た時、目を奪われました。ぶれることのないフォーム、足の回転の速さ、全身をバネのように使いどンドン前へ進んでいくその姿を見て、どこまで速くなるのだろうと思ひました。彼はその期待に応えるように記録を伸ばしていきました。大会に出る度にタイムを縮め、2年生ながら全国大会の出場も決めました。しかし、結果は惨敗でした。800mという競技の楽しさだけでなく、厳しさも学んだのです。

3年生になって臨んだ2度目の全国大会で彼は日本一となりました。才能があったからと言ってしまえばそれまでですが、それだけではない大きな要因がありました。それは「ライバル (豊橋南陽中：小倉天心選手) の存在」です。3年生で県内に敵なしと思われた矢先、彼は東三河総体で負けました。その相手が同じ市内の中学校に通う同学年の小倉選手でした。それまで県内の選手に負けたことがなかった彼にとって、この結果は何よりもショックであったと思ひます。しかし、このレースをきっかけに、自分には何が足りないのかをよく考えるようになりました。おそらく、そのライバルが現れていなくても再び全国大会の舞台に立つことはできたと思ひますが、優勝はできなかったと思ひます。同郷のライバルがいて、どの大会も油断することなく常に反省と挑戦を繰り返してきたからこそ、掴み取ることができた栄冠ではないかと強く感じています。そして、そのライバル小倉選手が全国大会で準優勝。市内大会からどれだけレベルの高いレースを繰り返してきたのか、改めて驚かされました。

彼は高校に進学してからも800mで日本一を目指します。その道のりは決して平坦ではありませんが、全国のライバル達と切磋琢磨し、再びその栄冠を掴み取ることを心から願ひています。



全日本中学校陸上競技大会 男子800m A決勝で先頭を走る鈴木太智選手  
左端は2位の豊橋南陽中 小倉天心選手

(夏目 啓司)

ません。義務教育での部活動の在り方は大きな変革期を迎えています。クラブチームや中学校で陸上競技を始めた選手の皆さんが、高校でも継続してもらえるように、クラブチーム関係者の方々や中体連とも連携をしなければならぬと痛感しています。また、高校から始めてもらえる選手の発掘も急務だと思います。世界に誇れる高校の部活動を衰退させるのではなく、良い方向に持っていけるように、皆さんで考えていかなければならないと思います。皆様のご協力をお願いいたします。

本年度をもって、高体連の活動を支えていただいた、知多支部の小野田副委員長、尾張支部の藤田副委員長が副委員長を退任します。お二人には高校駅伝開催において多大なるご尽力をいただきました。心から感謝を申し上げます。また、委員の方の退任もあります。高体連を支えていただいた皆様方に心から感謝申し上げます。来年度からはお二人の新副委員長を始め新しい委員の方を迎え、より一層堅固な高体連の組織にしていきたいと思っております。

2020東京オリンピックのレガシーを2026年のアジア大会に、またその先の昭和58年(1983年)から45年ぶりに開催される2028年全国高校総体につなげていきたいと思っております。今後とも高体連の活動にご協力をよろしく願います。

(石井 哲郎)

## 高体連定通部

定時制・通信制陸上競技のこころ

～6枚の饅別袋～

大府市の松橋政人さん(64)がアルバムの整理をしていると饅別袋が出てきた。数えると六枚。それは四十年以上も前のものだったが、不思議なことに色あせてはおらず、真新しく見えたという。

松橋さんは家庭の事情から、中学を卒業するとモーターの製造工場に就職した。そこで働きながら定時制高校に通ううち、大学進学を夢見るようになる。高校で陸上を始め、全国大会に出場したことがきっかけだった。自分も大学で教員資格を取って定時制高校の教師となり、働きながら学ぶ人たちに陸上の指導をし、全国大会に連れて行きたいと思ったのだった。

家の経済状態を考え悩みに悩んだが、会社を辞める決意をした。最初は会社から引き留められたが、職場のみんなも応援してくれるようになった。そして退職の時、組み立てや機械など六つの班の人たちから饅別をもらった。胸が熱くなり「絶対に教師になる」と心に誓った。奨学金を受け、複数のアルバイトを掛け持ちして勉強した。その結果、大学を卒業すると教師になることができた。それだけではない。定年退職するまでの間に、県高等学校体育連盟の定時制通信制陸上競技の総監督として、16回も全国大会で男女総合優勝に導くことができたのだった。松橋さんは「会社員時代、大勢の仲間から恩を受けました。長い年月がたち、もう当時の人たちに恩返しすることはできません。でも、その恩を次の人たち…教え子に送ることができました。直接ではないけれど、恩を返せたのではないかと考えています。そして、受けた恩は、決して忘れることはできません」と話す。

『平成29年10月29日 中日新聞 ほろほろ通信』より

昨年、委員長を引き継いだ時にこの新聞の切り抜きも一緒に入っていた。

近年、定通制や部活動を取り巻く状況は大きく変わってきている。学校において部活動が果たしてきた役割は大きい。それはこれからも変わらないはずだ。

真剣さ、本気さを持っているからこそ、見えてくる景色がある。定通陸上の競技レベルは高くない。しかし、それと真剣さや本気度は違う。限られた環境の中で精一杯に自分の持てる力を伸ばし、発揮し、自信をつけ、人生の糧を得る。

定通の生徒が活躍できる機会は限られている。小・中とスポーツに親しむ機会を持てず取り残されてきた子どもたちも多い。だからこそ、教育として、個々の自尊心を高める手段として定通教育の中で部活動は大切な役割を果たしていくのでないか。部活はクラブチーム化する流れがある。スポーツは個人が選んで楽しむものという考えが根底にある。それは素晴らしい考えだ。しかし、それでは必ず取り残される、乗りそびれる子どもたちが出てくる。

今と昔、時代は違えども教育に求められる役割は変わらない。定通において部活動は非常に有効な教育ツールである。陸上競技を通して少しでもそういう子たちに光が当たるよう、委員長として定通陸上の更なる発展を目指していきたい。

この新聞の切り抜き記事がその思いを強くさせてくれた。

(原田 賢一)

## 学 連

2022年学生陸上競技のシーズン総括と

2023シーズンの展望

2022年シーズンは、感染症下により様々な制約が生じていた社会生活は徐々に緩和され、2019年とほぼ同じ規模で競技会が開催された。特に2020年、2021年と2年連続して開催中止となっていた西日本インカレは、中国四国学連がホストとなり愛媛県ニンニスタジアムにて開催することができた。思い起こせば、2020年に自粛生活がはじまったため最後に開催された2019年の西日本インカレ(京都)は、現4年生(2019年度入学生)が1年生の時であった。したがって選手だけではなく競技会の準備・運営を担当した地区学連の学生役員にとっても、ほぼ全員が未経験の2022年西日本インカレとなった。今回は短距離や跳躍種目を中心に多くの大会記録が更新され、選手はもちろん大会ホストの中国四国学連と愛媛陸協としても満足できる大会となった。2023年大会は、岐阜メモリアルを舞台に2015年の開催以来東海地区で西日本インカレが開催される。2022年9月に開催された日本インカレ(京都)では、久しぶりの有観客開催となり、母校の選手たちの活躍を見ようと観戦チケットを買い求める来場者が集まる見慣れた景色が戻ってきた。

下半期に入ると再び感染拡大が各地で発生し、駅伝やロードレースのシーズンに向けて開催が危ぶまれる声もあったが、無事競技スケジュールを消化することができた。年末に開催された全日本大学女子選抜駅伝(富士・富士宮、以下：富士山駅伝)では、名城大学が大会5連覇を成し遂げた。2013年の第1回大会から2022年大会で10回目の開催となった富士山駅伝の歴代優勝校は、2013～2017年までの5回が立命館大学、2018年以降は名城大が連覇し、立命館の5連覇に並んだ。また、富士山駅伝の3

週間前に開催された東海学生女子駅伝でも優勝し、16連覇(16回大会中)をしている。10月に行なわれた全日本(仙台)では6年連続7回目の優勝をおさめており、名城大の4年生は在学中、学生駅伝では無敗で卒業することになる。どうしても名城大が目されがちな東海地区の学生陸上競技ではあるが、2022年に誕生した新記録・タイトル、そして、2023年に向けた展望を紹介する(表1)。

#### ■中京大学女子短距離

同大卒業生でもある市川華菜氏(2012年ロンドン大会オリンピック)がコーチに就任して以来、かつてのような日本インカレで活躍する選手が育ってきている。特に東海地区の女子400mRは、2016年を最後に45秒台で走るチームがいなかったが、2022年東海インカレでは大会記録を更新する45秒97を記録した。メンバーの半数が1年生であったこともあり、2023年以降も記録の更新が期待できる。

#### ■本郷 汰樹 選手(名古屋大学 M2)

現中京大陸上競技部を指導する青戸慎司氏(中京大)が10秒28(1988/1989年:日本記録/日本学生記録)を樹立して以来、2016年まで高橋周治氏(愛知医大、10秒27)によって更新されなかった男子100mの東海学生記録であったが、本郷選手が大幅に更新した10秒12は、日本学生歴代9位(2022年ランキング3位)にもなる。本郷選手は、高校時代は愛知県内の高校で競技生活を送り、関西の大学に進学。大学卒業後は、名古屋大学大学院に進学し、競技を続け6年ぶりに東海学生記録を更新した。

#### ■田中 友梨 選手(至学館大学3年)

7種競技を専門とする田中選手は、日本選手権は5位入賞、日本学生個人選手権は2位(1位は既卒生)、そして、東海・西日本・日本インカレと全ての対校戦で優勝し、インカレでは無敗のシーズンとなった。前出の日本学生個人と日本選手権では優勝は逃したが、学生の中では常にトップのスコアを残し、学生相手には負け知らずのシーズンであった。最終学年となる2023年は、ワールドユニバーシティゲームズ(WUG)の開催年と重なるため、さらに記録を更新し、代表に選出されることを期待している。

#### ■名城大学 / 女子長距離

学生駅伝では圧倒的な選手層で、全日本大学女子駅伝6年連続7回目の優勝、富士山選抜女子駅伝5連覇、東海学生女子駅伝16連覇を成し遂げた。チームだけではなく、小林成美選手(4)は、世界選手権(オレゴン)10000m代表に選出、同学年の山本有真選手は、アジア室内選手権3位、そして、1年生の柳楽あずみ選手は、U20世界選手権1500m出場するなど、各世代で世界レベルの選手が活躍する名城大は、2023年も進化を続けるであろう。

末筆ではございますが、日頃から学生競技の発展と向上のために競技会運営および審判派遣にご協力いただいている愛知陸協審判員の方々には、本誌をもって感謝申し上げます。2023年シーズンもご指導、ご協力いただけますようお願い致します。

表1:2022年に誕生した新記録と主な競技成績

選手名 (所属・学年)	種目	記録	タイトル / ランキング
【男子】 本郷 汰樹 (名古屋大・M2)	100m	10.12	東海学生記録、日本学生歴代9位 学生ランキング1位、
伊藤 陸 (近大高専・M6)	三段跳	16.85	日本選手権優勝 / アジア室内 選手権9位
【女子】 田中 友梨 (至学館大3)	7種競技	5506	日本選手権5位、 日本インカレ優勝
山本 有真 (名城大4)	5000m 3000m	15.16.71 8.52.19	東海学生記録(5000m)、 日本学生記録更新(3000m)、 日本インカレ/日本学生個人選手権優勝、 アジア室内選手権3000m3位
小林 成美 (名城大4)	10000m	33.21.48	世界選手権代表
中京大 (外園3・須崎1・ 明星M1・蟹江1)	400mR	45.97	日本インカレ8位
名城大学	駅伝		全日本大学女子駅伝優勝、 全日本大学女子選抜駅伝優勝、 東海学生女子駅伝優勝

(黒須 雅弘)

## 実業団

### 2022年度のシーズン後半について

#### 【全日本実業団駅伝】

11月に開催された全日本実業団女子駅伝(通称:クイーンズ駅伝)では、豊田自動織機が田中希実選手の駅伝デビューでの活躍もあり、6位に入り1年でシード権を取り戻しました。



6位入賞の豊田自動織機の選手たち

男子の1月の全日本実業団駅伝(通称:ニューイヤー駅伝)では、トヨタ自動車が昨年の5位を上回る3位となりました。

一方、マラソン関係では、2月の丸亀国際ハーフ大会に出場したトヨタ自動車の太田智樹選手が日本歴代3位の1時間00分08秒を記録しました。

また、第10回アジア室内陸上の1500mに出場した後藤夢選手(豊田自動織機)が日本歴代2位の4分19秒29で2位に入賞しました。また、田中希実選手は、海外での室内3000mに出場し、室内日本新の8分45秒64で4位となりました。2023年度も8月に世界選手権があります。

愛知県内で活動する実業団選手の多数の出場を期待するとともに、結果も期待したいと思います。

皆さんの応援をよろしくお願いします。



日本歴代3位を記録した太田選手

(中村 博之)

## マスターズ陸上

日頃は愛知マスターズ陸上へのご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

2022年12月18日(日)に国営昭和記念公園(立川市)において「第35回全日本マスターズ駅伝大会」が開催され、愛知チームは僅差で惜しくも3位という結果でした。

順位	チーム名	記録
1位	新潟 A	1.23.54
2位	東京 A	1.23.57
3位	愛知	1.23.59
4位	石川	1.25.47
5位	千葉 A	1.27.22

### 一村瀬裕之監督のコメント

1区藤城 健選手が3位で中継し、2区中野哲也選手が一旦、先頭に立つ力走を見せましたが、3位で3区の近藤直樹選手へ繋ぎ、近藤選手は区間賞を獲得する走りで2位に浮上しました。3チームが5秒差内で4区に中継され、大塚良軌選手は強力な選手が集結している区間において粘りの走りを見せ、先頭からは35秒ほど遅れましたが3位をキープしてアンカーの酒井 一選手に棒が託されました。酒井選手は区間賞の走りを見せ一旦開いた差を5秒まで詰めたのですが、惜しくも3位でゴールとなりました。

コロナ禍の状況の下、それぞれの区間で各選手が現在の自分の持てる力を発揮し、駅伝愛知の粘り強さを他県の方に知っていただけた大会であったと思います。

選手は3位という順位に対して悔しさを前面に出してありました。来年もさらに上位を目指せるよう、走ることが好きで勝負に対して貪欲な方々のご協力を得て本大会に臨みたいと考えております。



左から藤城 健さん、中野哲也さん、近藤直樹さん、大塚良軌さん、酒井 一さん 前列中央 村瀬裕之監督

いよいよ令和5年度のトラックシーズンが始まります。生涯スポーツとしてのマスターズ陸上が更に盛り上がるよう各大会の運営に取り組んで参ります。

今後とも、愛知マスターズの活動に、ご理解ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

### 【令和5年度競技会予定】

4月9日(日)

第88回記録会 ウェーブスタジアム刈谷

5月14日(日)

第89回記録会 ウェーブスタジアム刈谷

6月25日(日)

第90回記録会 ウェーブスタジアム刈谷

7月2日(日)

第32回愛知マスターズ選手権大会 ウェーブスタジアム刈谷

8月26日(土)

第91回記録会 ウェーブスタジアム刈谷

10月7日(土)～9日(月・祝)

第44回全日本マスターズ選手権大会 維新百年公園(山口市)

12月24日(日)

第36回全日本マスターズ駅伝大会 国営昭和記念公園(立川市)

(兵藤 隆昭)

## OB・OG会

OB・OG会は、年間の事業計画を変更し2月7日に日帰り研修会と新春懇親会を、三河地区世話人のご尽力で開催しました。NHK大河ドラマで今まさに旬の岡崎です。家康公生誕の地である岡崎城が、寺の総門と山門を通して見ることのできる大樹寺、参加者全員が家康家臣の気分で記念撮影。暫く開催できなかった懇親会も、和気あいあいの中で昔話に興じました。午後はオープンしたばかりの大河ドラマ館と八丁味噌蔵見学。短い時間ではありましたが参加いただいた皆さん満足した様子で、是非次回の開催をとの声で解散しました。

幹事の皆さんご苦勞様でした。



大樹寺での記念撮影

(水野 久)

## 競技会報告

第3区 (2.2km)	工藤 愛桜	阿久比中	6.57
第4区 (2.2km)	中垣のぞみ	矢作北中	7.13
第5区 (3km)	富澤 茉那	甲山中	10.40

### 第71回愛知県中学校駅伝大会

2022年11月12日(土) 豊田市総合運動公園  
(男子: 6区間 18km・女子: 5区間 12.6km)

## 女子成績

1 阿久比中	43.13		
(川内茉里・古川蒼柊・工藤愛桜・生野奏和・小高胡春)			
2 矢作北中	43.48	5 富士中	44.29
3 竜海中	43.50	6 吉田方中	44.29
4 新香山中	44.27		

## 女子区間賞

区間	氏名	学校名	記録
第1区 (3km)	渡邊 真瑚	千郷中	10.10
第2区 (2.2km)	古川 蒼柊	阿久比中	6.42

## 男子成績

1 矢作北中	56.59		
(兼定星那・小山 環・田畑尚志・小山 将・川崎宏大朗・伊藤颯汰)			
2 豊明中	57.21	5 高師台中	58.02
3 大口中	57.40	6 瀬戸南山中	59.04
4 竜海中	57.41		

## 男子区間賞

区間	氏名	学校名	記録
第1区 (3km)	横畑 僚大	青陵中	9.03
第2区 (3km)	小山 環	矢作北中	9.20
第3区 (3km)	田畑 尚志	矢作北中	9.21
第4区 (3km)	柴田 貫慈	翔南中	9.21
第5区 (3km)	鈴木 太智	東陽中	8.59
第6区 (3km)	伊藤 颯汰	矢作北中	9.08

## 陸上競技場めぐり⑩

## 物産フードサイエンス1969知多スタジアム(知多運動公園陸上競技場)

## ～県内唯一の2種競技場として更新～

名鉄常滑線「朝倉駅」から徒歩8分に、「物産フードサイエンス1969知多スタジアム(知多運動公園陸上競技場)」があります。1977年に土のグラウンドで第3種公認競技場として竣工、1983年には第2種として公認していただきました。雨の中メガネの泥を拭きながら走る選手の姿を当時の知多市長が見かね、各方面のご尽力で待望の全天候型としていただくことができました。当時の状況は、陸協ホームページの「広報」15・16号「知多競技場の歴史①、②」を参照。

2種競技場として40年に亘り維持管理するのは並大抵のことではなく、毎回幾多の困難に突き当たりました。その都度、知多市の方々の多大なるご尽力により何とか継続できました。2022年4月の更新に当たっては、愛知陸協として2026年愛知・名古屋アジア大会に向け第1種の瑞穂競技場が改修工事で使用不可となることを踏まえ、県内に2種競技場の練習場所の確保が重要と考え、2019年9月に知多市長に早々に更新のお願いをしました。しかし知多市の財源だけでは整備は難しく、2種更新どころか公認競技場の存在をも危ぶまれる状況に直面しました。陸協と知多市が一体となり、アジア大会に関する愛知県当局を初め各機関への働きかけを行ない、何とか財源を確保できて晴れて更新となりました。更新に際し、写真判定装置はNISHIの最新機種を導入、棒高跳用支柱の新規購入など利用しやすい競技場となりました。競技場の利便性は設備の更新もさることながら、日々公園管理人の方の大会規模に応じた競技場前の道路の整理(土日は駐車可となるが歩道に乗り上げないようにコーンの設置)や、競技運営の効率化のため記録情報システムのLAN整備(当初は無線LANその後システムの安定化のため有線LAN)など細かな作業を行なってスムーズな競技運営ができるようにしていただき感謝しています。また、2種更新のお願いと同時に、歴史ある元旦競歩大会を知多市で開催したいとの陸協の意向を受け、直ちに知多市長始め市役所・警察関係者への陳情を行なった結果、わずか3ヶ月足らずで道路使用許可・住民同意・コースの整備等を行なうことができました。無事2020年1月1日に公認コースとして大会を開催できたことも、日頃からの陸上競技に対する知多市役所の多大なるご理解の賜物と思います。

本競技場は知多市出身の3000m障害の山口浩勢選手が、2020東京オリンピック・2022オレゴン世界選手権に出場の際の練習・調整場所として利用した場所でもあり、今後も愛知陸協の3000m障害のメッカとして活用されることを期待しています。7月には、知多市スポーツ協会のご後援を頂き山口選手を招いて障害走の講習会が行なわれました。知多市長も新たなオリンピック選手がこの競技場から生まれることを望んでいるとお聞きました。

知多競技場利用の皆様には、知多市の多大なお力添えのもとに競技場が運営されていることを心にとどめ、施設を適切に使用していただき自己記録に臨んでいただきたいと思います。



市職員による元旦競歩に向けての道路整備



山口浩勢選手の障害走講習会



(名倉喜三郎)

**2022年度第2回駅伝強化長距離競技**  
2022年11月12日(土)物産フードサイエンス1969知多スタジアム

(1位のみ)

種目	氏名	所属	記録
中学男子 3000m	伊藤 悠真	SET PROJECT	9.15.87
男子 5000m	平松 享祐	中部大第一高	14.21.04
男子 5000mW	鈴木 智大	名大	20.02.56
女子 3000m	杉浦 未蘭	人環大岡崎高	9.30.50
女子 5000mW	川邊 のぞみ	名大	24.12.79

**女子第33回・男子第77回東海高等学校駅伝競走大会**  
2022年11月27日(日)一宮市大野極楽寺公園  
(女子:5区間・21.0975km・男子:7区間・42.195km)

女子成績(本県分のみ)

1 豊田大谷 1.12.01

(石川桜子・中馬蘭奈・森 千莉・山本滝穂・杉浦さくら)

2 豊川 1.13.07 6 岡崎城西 1.14.16

区間賞

区間	氏名	学校名	記録
2区	中馬 蘭奈	豊田大谷	13.37
3区	森 千莉	豊田大谷	10.09
4区	内田 詩乃	豊川	10.17
5区	杉浦さくら	豊田大谷	17.04

**第62回中部実業団対抗駅伝競走大会**

2022年11月13日(日)

渥美半島 はなとき通り発着 7区間 80.5km

成績(本県分のみ)

1 トヨタ自動車 3.54.41

(丸山竜也・ビダンカロキ・太田智樹・西山雄介・大石港与・西山和弥)

2 トヨタ紡織 3.56.32 6 トーエネック 4.01.19

4 愛知製鋼 3.59.33 7 中央発條 4.01.58

5 愛三工業 4.00.21 8 Infinity Athlete &amp; Running Club 4.16.49

区間賞

区間	氏名	所属	記録
第1区(12.0km)	丸山 竜也	トヨタ自動車	35.02
第2区(8.3km)	マチャリアディラング	愛知製鋼	23.26
第3区(12.2km)	太田 智樹	トヨタ自動車	35.36
第4区(15.5km)	羽生 拓矢	トヨタ紡織	43.58
第5区(12.2km)	宮脇 千博	中部実業団選抜A	35.18 区間新
第6区(8.5km)	聞谷 賢人	トヨタ紡織	24.02
第7区(11.8km)	田中 秀幸	トヨタ自動車	34.44

男子成績(本県分のみ)

1 豊川 2.08.51

(蟹江隼人・野村慈音・相地一夢・近藤琳太郎・鷺野遥都・神田悦士・中山達貴)

3 愛知 2.09.45 4 中部大第一 2.09.57

区間賞

区間	氏名	学校名	記録
2区	橋本憲一郎	愛知	8.36
4区	平松 龍青	中部大第一	24.35
5区	鷺野 遥都	豊川	8.44
7区	中山 達貴	豊川	14.58

**第16回東海学生女子駅伝対校選手権大会**

2022年12月11日(日)知多半島コース:知多半島半周 5区間26.6km

女子成績(本県分のみ)

1 名城大学 A 1.29.21

(柳樂あずみ・石松愛朱加・原田紗希・荒井優奈・小林成美)

3 日本福祉大学 1.36.54 6 東海学園大学 1.45.54

4 中京大学 1.38.58 7 愛知教育大学 1.50.06

区間賞

区間	氏名	学校名	記録
1区(3.7km)	柳樂あずみ	名城大学 A	11.37
2区(4.2km)	石松愛朱加	名城大学 A	13.27
3区(5.9km)	原田 紗希	名城大学 A	19.23
4区(4.7km)	荒井 優奈	名城大学 A	16.37
5区(8.1km)	小林 成美	名城大学 A	28.17

**2022年度愛知陸協長距離競技会**  
2022年11月13日(日)物産フードサイエンス1969知多スタジアム

(1位のみ)

種目	氏名	所属	記録
中学男子 3000m	鈴木 太智	東陽中	8.58.59
男子 5000m	大野 雄揮	CROSSOVER	15.21.56
高校中学女子 3000m	渡邊 真瑚	YRC	10.01.04
女子 5000m	古賀 夕貴	庄内 RT	18.01.33

**クイーンズ駅伝 in 宮城**  
**第42回全日本実業団対抗女子駅伝競走大会**

2022年11月27日(日)

松島町文化観光交流館前~弘進ゴムアスリートパーク仙台(宮城コース)

女子成績(本県分のみ)

6 豊田自動織機 2.16.15

(田中希実・小笠原安香音・川口桃佳・ヘレンエカラレ・簀下明音・前田梨乃)

## 第84回東海学生駅伝対校選手権大会

2022年12月11日(日)知多半島コース:知多半島一周 7区間63.5km

## 男子成績(本県分のみ)

2 名古屋大学 3.18.22

(田尻慎之介・重田直賢・加藤太一・勝田哲史・河崎憲祐・吉原 諒・森川陽之)

3 愛知工業大学A 3.18.33 7 愛知教育大学 3.30.21

5 中京大学 3.23.30 8 中部大学 3.30.51

## 区間賞

区 間	氏 名	学校名	記 録
3区(8.1km)	吉田 椋哉	愛知工業大学A	24.58
5区(10.3km)	渡邊 大誠	愛知工業大学A	32.22
7区(12.3km)	森川 陽之	名古屋大学	37.11

## 第30回全国中学校駅伝大会

2022年12月18日(日)滋賀県希望が丘文化公園

## 女子成績(本県分のみ)

37 阿久比中 47.03

(古川蒼椏・小高胡春・工藤愛桜・生野奏和・川内茉里)

## 男子成績(本県分のみ)

27 矢作北中 1.01.12

(福西和希・小山 環・伊藤颯汰・小山 将・川崎宏大朗・兼定星那)

女子第34回全国高等学校駅伝競走大会  
男子第73回全国高等学校駅伝競走大会

2022年12月25日(日)たけびしスタジアム京都

## 女子成績(本県分のみ)

19 豊川 1.11.20

(吉田莉帆・森 彩純・林 那優・内田詩乃・秋竹凜音)

## 男子成績(本県分のみ)

41 名経大高蔵 2.11.55

(河野温喜・北林陸音・内山椋太・大内伶央斗・前野皓士・牧野海斗・福田大馳)

## 第54回元旦競歩・長距離競技会

2023年1月1日(日)

物産フードサイエンス1969知多スタジアム・付設長距離競歩路

## 成績(本県分一位のみ)

種 目	氏 名	所 属	記 録
高校女子5KmW	寺本 瑛美	旭丘高	25.16
一般男子10KmW	梅本 崇弘	名大	46.35
高校男子10KmW	加藤 瑛一	旭丘高	51.03
中学男子3000m	宮崎 航	浄心中	9.29.67
一般男子5000m	永田 和寛	みかん山	16.36.65

高校男子5000m	藤原光一郎	豊明高	16.21.64
一般男子10000m	西岡 大志	至学館大	32.08.83
高校男子10000m	谷口 空波	享栄高	33.53.27
中学女子3000m	石田恵梨果	知立南中	11.30.98
高校女子5000m	梅村 茉那	旭野高	17.36.97
一般女子10000m	山本萌恵子	愛知陸協	36.38.39

ニューイヤー駅伝2023 in ぐんま  
第67回全日本実業団対抗駅伝競走大会

2023年1月1日(日)

ニューイヤー駅伝コース(100km)

## 成績(8位入賞本県分のみ)

3 トヨタ自動車 4.50.10

(田中秀幸・アレックス チェロノ・太田智樹・西山雄介・丸山竜也・西山和弥・服部勇馬)

## 区間賞

区間	氏 名	所 属	記 録
3区	太田 智樹	トヨタ自動車	37.40
6区	羽生 拓矢	トヨタ紡織	34.58
7区	服部 勇馬	トヨタ自動車	46.08

## 第15回愛知県市町村対抗駅伝競走大会

2023年1月14日(土)愛・地球博記念公園内

順位	市 の 部		町 村 の 部	
	市	部	町	村
1	岡 崎	1.39.15	阿久比	1.41.50
2	名古屋	1.40.39	東 浦	1.45.19
3	豊 田	1.41.04	蟹 江	1.47.01
4	豊 橋	1.41.21	東 郷	1.49.34
5	西 尾	1.42.07	幸 田	1.50.30
6	東 海	1.42.56	扶 桑	1.51.54
7	一 宮	1.43.08	武 豊	1.51.58
8	稲 沢	1.43.11	豊 山	1.52.05
9	豊 川	1.43.15	大 口	1.53.37
10	みよし	1.43.48	美 浜	1.54.07

## 区間賞(○数字は区間を示す)

## 市の部

①宇野莉里杏(安城)

②伊藤 颯汰(岡崎)

③早川 歩(安城)

④火山 華(岡崎)

⑤鈴木ひばり(西尾)

⑤熊本みくる(豊川)

## 町村の部

①古川 蒼椏(阿久比)

②石田清和斗(幸田)

③竹村 風翔(阿久比)

④高木こころ(設楽)

⑤浮田 夏帆(東浦)

- ⑥近江 衿香(豊橋)      ⑥竹内麻里子(阿久比)  
 ⑦尾田 賢典(岡崎)      ⑦近藤 直樹(阿久比)  
 ⑧大内伶央斗(西尾)      ⑧仙石 旭(阿久比)  
 ⑨山口 浩勢(知多)      ⑨黒川 拓海(蟹江)

### モリコロ賞 市の部

順位	チーム	昨年度順位	今年度順位	上昇順位	タイム
1	安城	30	12	18	1.44.21
2	みよし	24	10	14	1.43.48
3	長久手	28	17	11	1.45.40

### 町村の部

順位	チーム	昨年度順位	今年度順位	上昇順位	タイム
1	蟹江	9	3	6	1.47.01
1	扶桑	12	6	6	1.51.54
3	東浦	4	2	2	1.45.19
3	豊山	10	8	2	1.52.05
3	大口	11	9	2	1.53.37

## 第106回日本陸上競技選手権大会・室内競技 2023年2月4日(土)・5日(日)大阪市 大阪城ホール

### 男子 (本県8位入賞のみ)

種別	種目	順位	氏名	所属	記録
U20	60m	4	向井 悠汰	中京大中京高	6.91
		7	小島 拓真	名古屋大谷高	6.93
	走幅跳	8	森部 諒	名城大附高	6.48
U18	60m	8	寺下 頼檜	豊川高	7.05
	棒高跳	3	谷口 海斗	中京大中京高	4.60

### 女子 (本県8位入賞のみ)

種別	種目	順位	氏名	所属	記録
日本選手権	60mH (0.838m/8.50m)	3	大松 由季	愛教大ク名古屋	8.23
		4	安藤 愛未	至学館大	8.26
	棒高跳	8	所 杏子	ラフィネ	3.80
	三段跳	8	浅野紗弥香	東海学園 TC	11.88
U20	60mH (0.838m/8.50m)	1	林 美希	中京大中京高	8.37
		4	片山 心菜	中京大中京高	8.48
U18	60m	5	佐藤 俐有	至学館高	7.71
U16	60m	5	佐藤 那有	田原東部中	7.88

## 名古屋ウィメンズマラソン2023 2023年3月12日(日)バンテリンドームナゴヤ発着

コロナの制限もかなり緩和された中、8月のブダペスト世界選手権・24年パリオリンピックをめざすMGCなどの選考会を兼ねて開催されました。少し暑い気温の中、シティマラソンも合わせて約2万1千人が春の風物詩を再現しました。チェプンゲティッチ選手の連覇に加え、地元愛知出身の鈴木亜由子選手が沿道の大声援に押されて自己新記録で日本人1位となりました。前田穂南選手がMGCの出場権を獲得しました。



日本人1位の鈴木選手

各方面のご協力に感謝します。

### ウィメンズマラソン (エリート)の部

- 1 ルース・チェプンゲティッチ (ケニア) 2.18.08
- 2 鈴木亜由子 (JP日本郵政グループ) 2.21.52 PB
- 3 前田 穂南 (天満屋) 2.22.32 MGC PB
- 4 張徳順 (中国) 2.24.05
- 5 上杉 真穂 (スターツ) 2.24.16
- 6 鈴木 優花 (第一生命グループ) 2.25.46
- 7 和久 夢来 (ユニバーサル) 2.25.58 PB
- 8 李芷萱 (中国) 2.26.28
- 15 光恒 悠里 (十八親和銀行) 2.31.26 新人賞

### ホイルルチェアマラソン (10km)

- 1 喜納 翼 22.20
- 2 安川祐里香 26.35
- 3 中村 嘉代 26.44
- 4 中尾 有沙 28.26
- 5 中山 和美 29.36
- 6 正木 楓 30.24

## 愛知選手権女子マラソン

2023年3月12日(日)バンテリンドームナゴヤ発着

- 1 吉田 香澄 (愛知電機) 2.39.33
- 2 古賀 夕貴 (庄内 RT) 2.49.19
- 3 横山友里乃 (ランコレ) 2.49.34
- 4 堀木なお子 (長久手 RC) 2.52.13
- 5 坂川真由美 (AC一宮) 2.52.25
- 6 富田 光江 (富士松 AC) 2.52.38

## 名古屋シティマラソン2022 2023年3月12日(日)バンテリンドームナゴヤ発着

### ハーフマラソン 男子の部

- 1 牛山 純一 1.04.52
- 2 Ben St Lawrence 1.05.15
- 3 河北 竜治 1.07.01

4	大久保 匠	1.07.04
5	大山幸志郎	1.07.57
6	瀬口 啓太	1.08.18

## ハーフマラソン 女子の部

1	河村英里香	1.20.28
2	伊藤 朱音	1.27.15
3	Wong Mei yan	1.27.16
4	舘 美穂	1.27.19
5	世古 理恵	1.27.40
6	岩下 優子	1.28.35

## 10km 男子の部

1	中倉 啓敦	31.55
2	佐藤健太郎	32.40
3	浅野 竜也	32.43
4	山内 康平	33.10
5	井上 崇	33.27
6	嘉流 弘祥	33.43

## 10km 女子の部

1	菊池 厚子	40.50
2	渡辺 優希	41.42
3	南 奈々恵	43.15
4	佐原 真衣	44.32
5	鮫島由理恵	44.34
6	牧 浩子	45.42

## 理事会等会議報告

○12月理事会 令和4年12月6日(火) 18:00 教育会館

## 1. 協議事項

- ① 全国都道府県対抗女子駅伝・男子駅伝選手選考について
- ② 各種栄章候補者について
- ③ 愛知県スポーツ協会被表彰者について
- ④ 審判員昇格候補者について
- ⑤ その他

## 2. 報告事項

- ① 令和5年度日本陸連主要競技会について
- ② 各種大会結果報告
- ③ 陸連関係会議報告
- ④ 各専門委員会報告
- ⑤ 各陸協、協力団体より

○1月理事会 令和5年1月25日(水) 教育会館

## 1. 協議事項

- ① 令和5年度年間競技日程について
- ② その他

## 2. 報告事項

- ① マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知について
- ② 各専門委員会報告
- ③ 各陸協・協力団体からの報告
- ④ その他

○2月理事会 令和5年2月27日(月) 教育会館

## 1. 協議事項

- ① 令和5年度年間競技日程について
- ② その他

## 2. 報告事項

- ① マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知について
- ② 穂の国・豊橋ハーフマラソンについて
- ③ 各専門委員会報告
- ④ 各陸協・協力団体からの報告
- ⑤ その他

(水野 隆夫)

## 栄章

おめでとうございます

令和4年度愛知県スポーツ協会表彰

## 功劳賞

小島 末廣 赤尾 和雄

## 特別優秀選手賞

山西 利和(世界選手権優勝)

## 優秀選手・監督賞

川端 魁人(世界選手権入賞)

## 公認の日本記録樹立

川端 魁人 田中 希実

## 日本選手権大会等優勝

田中 希実

## 国体優勝

山本 有真 林 美希

(水野 隆夫)

## お く や み

長年本県の陸上競技の発展のため、多大なるご尽力をいただきましてありがとうございました。  
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(敬称略)

逝去者氏名	逝去年月	地区名
千田 俊樹	R4・9	名古屋
柴田 三郎	R4・12	西三河
高橋 光夫	R5・2	東三河

## 編集後記

◇新しい登録方法で、新しいコロナ対応でのシーズンが始まる。◇パリオリンピックや東京世界選手権、愛知・名古屋アジア大会と、大きな目標の大会へ向けて、日ごろからの積み重ねが重要。◇多方面からの寄稿に深謝。

## 編集委員

大西 敏功	小坂 拓	鈴木人呂信	竹前 正直
茶谷 和彦	新見 精三	野口 一昭	兵藤 重二
山下ゆかり			